（様式第８号）

事業報告書（令和４年度）

事業名　高校生・企業協働フードロス削減プロジェクト

団体名　岡山高等学校　　担当者名　林　秀俊

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

１．活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

8 月 10 日（水）10:30～11:30、オンラインで学童保育児童対象フードロス削減イベント「やめられない？とまらない？やめなきゃいけないフードロス！」を実施。全国より 22 施設（うち岡山県内 8 施設）、969 名（同県内 433 名）の児童が参加。岡山高等学校会議室より配信し、岡山一宮高等学校・清心女子高等学校・岡山高等学校グループが配信会場より各校の探究学習で学んだことを活かしながら参加児童にフードロス削減啓発を行った。カルビー株式会社からは当日教材として参加児童数分の菓子小袋提供を頂いた。

（8 月 10 日イベント各施設からの接続）

（8 月 10 日オンライン配信画面）

8 月の取り組みに先立ち、5 月 10 日（火）、6 月 11 日（土）、7 月 23 日（土）に岡山県学童保育連絡協議会・フードバンク岡山・株式会社ウィライツの協力で高校生の事前学習を行い、3 つのグループがそれぞれ「フードロスの現状」、「ドギーバッグ」、「余剰食材試用料理レシピ」のテーマで動画とクイズを作成した。作成した資料を使用して 8 月 1 日（月）岡山コンベンションセンターで行われた「おかやま SDGs プラザ夏の交流会」に出展し、参加の小学生 18 名に対してイベントプログラムを対面型にアレンジしたワークショップ形式での啓発活動を行った。

（様式第８号）

（6 月 11 日事前学習風景）

（7 月 23 日事前学習風景）

（8 月 1 日ワークショップ風景）

（8 月 1 日ワークショップ風景）

12 月 27 日（火）、岡山コンベンションセンターで岡山市民対象の成果報告会兼映画『もったいないキッチン』上映会を実施。主に岡山市内から 60 名が参加。8 月イベントの成果報告とともに、全農おかやま・パールライス岡山から「瀬戸内かきがらアグリ」の取り組み紹介、コノヒトカンプロジェクトからロス食材を使用した缶詰製造と寄附の取り組み紹介を行った。会場では岡山高等学校グループが探究学習の中で「瀬戸内かきがらアグリ」と協働で栽培・製品化した里海米「ツバサクラ」とコノヒトカンプロジェクトの缶詰をセットにしたチャリティー販売を行い、エシカルな消費行動を訴えた。

（12 月 27 日成果報告会）

（行動宣言記入後の児童と高校生）

（様式第８号）

（オンラインイベントチラシ）

（成果報告会チラシ表）

（成果報告会チラシ裏）

２．ESD の視点

①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

８月オンラインイベント終了時には、参加児童それぞれが行動宣言シートを作成し、施設代表児童による行動宣言紹介を行うことで、家庭・学校・施設での食事やおやつの時間におけるロス削減への意識を高めることができた。アンケートからは、イベント実施以降、施設での喫食時の行動や発言における児童の変化も確認することができた。

②どのように学び合いを取り入れたか

高校生の活動グループは３校の生徒混在の編成とし、各校それぞれでの学びを共有することで新たな視点を得るようにした。高校生同士の学び合いの経験を活かし、イベント時にはワークショップ形式をとり学童保育施設内での話し合いを促すことで参加小学生間で生まれた意見をオンラインで共有した。

③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

高校生にとっては学ぶ内容を小学生に対してわかりやすく伝えることを通して実際の行動変容を目指すことで、小学生にとっては行動宣言シートに記載した目標項目を各学童保育施設で活用してもらうことで、それぞれ実践への接続を図った。

３．取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

複数高校の生徒が協働し、オンラインも活用しながら、県内で食の分野から持続可能な社会作りに取り組んでいる企業・団体とつながり、課題の所在や課題解決に向けた実践について学ぶ機会を多く設けることで、多様な他者とかかわり、持続可能な社会の形成者に必要な、社会課題に対して多面的・総合的に考える態度や、円滑にコミュニケーションを行う力の育成を目指した。

イベント時には行動宣言シートの作成を行い、成果発表時にはフードロスをテーマにした映画の同時上映やチャリティー販売会を同時に行うことで、参加の児童や市民に対しても学びを行動につなげる機会を提供するとともに、課題について提示された複数の視点が批判的な思考を行うための材料となった。

（様式第８号）

参加各校の高校生がイベント後もフードロス問題に取り組み（岡山高校でのフードバンクと連携したロス食品配布活動、清心女子高校でのコノヒトカンを使用したフィリピンでの啓発活動、岡山一宮高校のドギーバッグ普及活動）、各校で後輩へと引き継がれることで、取り組みを持続的・発展的なものとすることができた。 事業を通して、参加各校の生徒教員と協力団体をつなぐことで、同じ SDGs 目標の達成に向けた複数学校による協働の先行事例とすることができた。
４．今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）
昨年度に引き続き、本取り組みについてはメディア等を通して広く知ってもらうことができた。フードバンクとのつながりから高校生が直接ロス削減に取り組む活動にも発展し、8 月にはお盆の時期に余剰となったクリームパンを 1200 個受け取りロス回避のための配布活動を、2 月には賞味期限が近づいた災害用備蓄ペットボトル水を 4000 本受け取り配布を通した備蓄品のロス削減啓発活動を行った。ペットボトルの配布については岡山高校生徒と総社市立清音小学校児童による協働での活動（3 月 15 日 CO-OP 総社東店）にもつながった。 2023 年 3 月 11 日（土）に「食品ロス」をテーマに行われた山陽新聞社連続シンポジウム「SDGs 地域課題を探る」第 1 回ではイベント実施からつながった高校生による一連の食品ロス削減活動について岡山高校生徒が紹介し、意見交換を通して新たな団体・高校とのつながりも生まれることとなり、次年度以降の連携のきっかけを作ることができた。 高等学校では「総合的な探究の時間」を中心にした課題解決型学習の広がりの中で、社会との協働、複数学校間での連携が急速に進んでいる。前年度の取り組み時以上に円滑な協働・連携が実現できたと感じており、今後の県内各学校における社会との連携を伴う学びの好事例とすることができた。